

(所見) 本年度は、学級数が7学級増加（学級増8、学級減1、差引7学級の増）した。特殊教育に対する関心が高まり、毎年度順調に学級増をみていることは喜ばしいことである。

しかし、設置地域が都市部にかたよっていること、中学校が小学校にくらべていちじるしくたりないこと、絶対数がまだまだたりないことなど、今後の課題は大きい。

a 開催された研究集会

① 特殊教育研究集会

時 35・7・2～3

所 白河市立白河第三小学校

主催 県教委・白河市教委

後援 県特殊教育研究会

主題 ◎特殊学級の学習指導

(音楽ならびにリズム運動)

◎特殊学級経営の諸問題

講師 東京都立水上小学校教諭 加賀谷哲郎

東京都立荒川区立荒川第一中学校教諭

林山 俊子

県教委指導主事 遠藤 伊雄

② 特殊教育研究集会

時 36・2・4

所 国見町公立藤田総合病院内養護学級

主催 県特殊教育研究会

後援 県教委

主題 特殊学級の教育課程ならびに指導要録の取扱いについて

講師 県教委指導主事 遠藤伊雄

(所見) 7月の研究集会では、昨年度は音楽を主にしたが、今年度は音楽ならびにリズム体育に重点をおき、実地授業および参加者の実技練習をした。2月の研究会では、教育課程をとりあげたが、これは大きな問題であるので明年度改めて研究を進める必要がある。

B 養護学校の教育

従来、福島整肢療護園（平市）内に設置されていた特殊学級（肢体不自由児、小学校5学級、中学校1学級）をきりかえ、県立養護学校が設された。

学校名 福島県立養護学校

設置期日 35・11・1

位置 平市大字上平窪字古館1の2番地

校長 豊田要三

学級編成および担任

	学年	種別	男	女	計	担任
小 学 部	1・2学年	混合学級	8	5	13	小林みよし
	3・4学年	〃	11	9	21	中山清
	5・6学年	〃	4	8	12	木原陽子
	1・2・3学年	脳性マヒ学級	13	11	24	安部昌子
	4・5・6学年	〃	2	1	3	竹内光春
中学部	1・2・3学年	混合学級	6	8	14	鈴木真志子

※児童生徒数 計87人 (35.11.1)

(所見) かねて、県肢体不自由児協会その他からしばしば陳情のあった養護学校の設置が実現したのは、喜ばしいことである。

しかし、県内にこの種の学校に入学すべき該当者が2,500人ほどいる。（35年11月調査）実情から考え、県内のほぼ中央に位し、交通便にも恵まれている郡山市に、新校舎を建築する（36年度事業）こととなった。

C 盲学校・ろう学校の教育

a 天皇、皇后のご視察

天皇、皇后両陛下には、昭和36年5月12日、福島盲学校、同ろう学校をご視察になった。

当日、両陛下は午前11時に飯坂町の宿舎から学校にお着きにならなった。まず盲学校校長室で佐藤教育長の奏上をお受けになり、ついで五十嵐校長の先導で盲・ろう両校舎、光寮をおまわりになり、授業をご覧になった。なお、両陛下は、各教室ごとに児童生徒に対して激励のおことばを賜わった。

奏上 福島盲学校・福島ろう学校ならびに福島光寮の概況について

私は、福島教育委員会教育長の佐藤光でございます。謹んで県立福島盲学校・聾学校・光寮の概況をご説明申しあげます。

福島盲学校の前身は私立福島訓盲学校でございまして、明治31年に創立されてから、今年で62年になります。その後昭和4年から聾教育を併せ行なうことになりましたが、それが福島聾学校の前身でございます。

本校舎は以前福島市内渡利地区にありましたが、昭和31年、不幸火災にあい全焼いたしましたので、復旧にあたりこの地に移転して、不燃性の近代的な校舎の建築を計画いたし、昭和32年度に盲学校、33年度に聾学校普通教室の建築が終ったのであります。なお若干教室が不足しますので今後引き続き増築の計画をたてております。

両校には、それぞれ小学校・中学部・高等部が設置され、両校合わせて職員53名、児童生徒220名がおります。両校の卒業生は上級学校に進学するもののはかは、